

ひろつか

広報 2013 6月
No.985 第3金曜日号

自然から 学ぶこと 感じること

6月1日、ハマヒルガオの苗2,500株を平塚学園高校の生徒(写真)や小・中学生らが、ビーチパーク東側の砂浜に移植しました。市観光協会が進めている「市民の手でハマヒルガオを再生するプロジェクト」の一環です。市観光協会や太洋中学校の生徒らが育てた苗が、来年の5月中～下旬には淡いピンク色の花を咲かせます。

6月は「環境月間」です。市内では、環境に配慮したさまざまな取り組みが進められています。身近な環境について考えてみませんか。

◀詳しくは2面へ



目次

1～3面…**特集** 身近な環境を考えよう
4～7面…募集・お知らせ・健康と福祉・スポーツ・
「子どもの健康」「お知らせ掲示板」

8面…「写真リポート」「市長こらむ」「減災ノススメ」
「6月納期の市税・手数料」「湘南ベルマーレ」

広報ひろつか電子書籍版

検索

◎発行/平塚市 ◎編集/秘書広報課
〒254-8686 神奈川県平塚市浅間町9番1号
tel 0463-23-1111 fax 0463-23-9467
<http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/>

Environment Month

特集

6月は環境月間
身近な環境を考えよう



市内では家庭や団体などで、地球環境を守るための行動が広がっています。環境教室への参加や節電への取り組み、環境配慮機器の導入など、この夏、身近にできることから取り組んでみませんか。

問 環境政策課 ☎21-9762

Education

親子で気軽に環境教室
「地球っ子ひろば」の活動

きっかけは子ども

四之宮の県環境科学センターなどで活動する、子どもと親の環境教室「地球っ子ひろば」。代表の齋藤美代子さん(左写真)は「環境問題に興味を持ったきっかけは、子どもの誕生でした」と語ります。齋藤さんは、子どもが生まれ



たのと同時に、食への不安を抱いたそうです。「子どもには、安全・安心な食べ物で、健康に育ってもらいたいと思いました」と振り返ります。平成9年、市が環境論文を募集しました。そこで、頭の片隅にあった環境への思いを書いて応募したそうです。その後、市環境懇話会や、さまざまな勉強会にも参加するようになり、見識を広めていきました。

県環境科学センターで開かれた環境学習リーダー養成講座も受講したそうです。「講座では、第一線で活躍する講師の

「子どもは工作が大好きです」と、齋藤さんは話します。環境に関する本の読み聞かせから始まった教室も、子どもたちが楽しみながら参加でき

工作で環境を考える

出前講座

環境教室などの講師無料で派遣します。

地球っ子ひろばなど、市内で環境活動をする個人や団体などが集まった「ひらつか環境ファンクラブ」から、地球温暖化に関する知識や活動経験が豊富な講師を無料で派遣します。地球温暖化などについて学びたいという方にお薦めです。講座は選択できます。

平成26年3月31日まで。原則として、市内在住・在勤・在学のおおむね10人以上で構成された団体。人数制限などの条件あり。講座内容や応募条件などの詳細は、市のウェブなどでご覧いただけます。

募 環境政策課 ☎21-9762や、市ウェブなどにある申込書を郵送・ファクスまたは直接、同課へ。



るようになんか工夫を重ねました。教室では、使用済みの天ぷら油を使った、ろうそく(右写真)作りなどにも取り組んでいます。ただ単にろうそくを作るのではなく、電気エネルギーの問題や、どうすれば環境を汚さずに処理できるのか、一人一人に考えてもらったそうです。

親子がキーワード

当初は、子ども向けの環境教室だった「地球っ子ひろば」。しかし、参加する子ども達の親の多くも環境問題に興味を持っていくことが分かってきました。環境教室の内容が大人にも対応できたため、子どもだけでなく幅広い世代を対象にするようになっていきました。「子どもたちのため

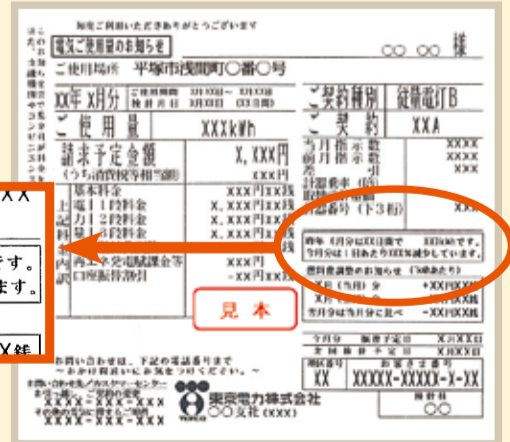
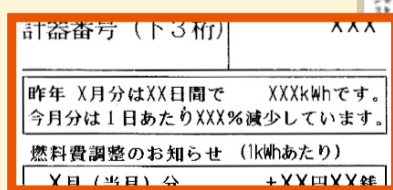
家庭の電気を見直そう!

Challenge

ご家庭で手軽に始められる節電にチャレンジしてみませんか。例えば、照明器具をLEDにしたり、テレビやパソコンの電源を小まめに切ったりするなど、ちょっとした工夫で節電できます。

また、東京電力の「電気ご使用量のお知らせ」には、毎月の電気の使用量に加えて、昨年同月の使用量も記載されています(丸で囲んだ部分)。

昨年に比べてどの程度、節電できるか、夏休みを利用してお子さんと一緒に挑戦してみたいかがでしょうか。



無理のない節電を

今年の夏は、節電の効果などにより、電気を安定して供給できる見通しです。引き続き、無理のない範囲でご協力ください。また、東京電力のインターネットサービス「でんき家計簿」では、毎月の電気料金や、各料金メニューに変更した場合の試算ができます。電気料金や契約などの詳細は、東京電力のウェブなどでご確認ください。

問 東京電力 ☎0120-993-052 (休・祝日を除く月~土曜日、午前9時~午後5時)



2年連続で最優秀賞
平成23年度と24年度に、市が開催したみどりのカーテンコンテストで、2年連続「最優秀賞」を受賞した中原の小山昇さん(左写真)。まるで生け垣を思わせるような豊かな茂り具合が、審査員から高く評価されました。小山さんは64歳で定年退職した後、自宅



みどりのカーテンで、暑い夏もエコに快適に過ごそう

に始めた教室ですが、環境について考えることはどの世代にとっても重要です。親子で参加することで、家族全員で実践してもらえます」と説明します。
「夏休みには、子どもたちも自宅にすることが多くなると思います。親子で目標を立てて、節電にチャレンジしたり、自然と触れ合ったりするのにはいい機会ですね。環境について考えるきっかけにして

体験して学ぼう

環境科学センターで6月8日、地球っ子ひろばによる環境教室「透視度計を作って川の水を調べよう！」が開かれ、小学生7人が参加しました。親子連れの姿も見られ、和やかな雰囲気の中、洪田川や鈴川などの水の透視度を調べました(右下写真)。参加し



た小学生から「川の水が思った以上にきれい」透視度計作りが楽しかった」といった感想が聞かれました。



昨年のみどりのカーテン

前の家庭菜園で野菜作りを10年近く続けてきました。
みどりのカーテンコンテストに応募したのは、家庭菜園でゴーヤを作っていたことがきっかけだったそうです。「自宅の東側は夏場、直射日光が当たり部屋の中がとても暑くなります。何かで日光を遮らなければいけないと、常々考えていました」と、当時を振

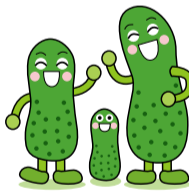
り返ります。初めてコンテストに応募した平成23年度に最優秀賞を受賞し、みどりのカーテンを作る面白さに目覚めたそうです。
今年も5月上旬、自宅東側の壁際にある花壇にゴーヤの苗を13株植えました。その後、つるが1メートルほど成長したのを見計らい、つるをはわせるための支柱立てとネット張りを家族総出で行ったそうです。

ゴーヤがつながりを

みどりのカーテンには毎年、ゴーヤが食べきれないほど実るそうです。「近所などへも配っていますよ。ゴーヤが地

域のコミュニケーションの道具にもなっています」と笑う小山さん。「年を追うごとに、単に暑さをしのぎたいという気持ちだけではなく、より良いゴーヤを作ろうという気持ちも強くなってきました」。

は、安全・安心なものであってほしい。生ごみからの堆肥作りも、その考え方の延長線上にあります」と話します。みどりのカーテンのために、昨年9月から、土作りを始めたと話します。



こだわりのカーテンコンテストの参加者を募集

4月以降に撮影した3〜5枚のL版写真(写真の裏面に住所・氏名)。1枚はみどりのカーテン全体が写っている写真。収穫や世話をしている様子の写真でも可。
本庁舎4階の環境政策課 ☎21-9762 などにある応募用紙とA4の用紙に貼った写真を郵送または直接、8月30日(金)までに同課へ。

庁舎の温度上昇抑制プロジェクト「クール・ビル作戦」の効果は

今年も植えました。
市は5月23日、本庁舎3・4階の西側部分にプランターを設置し、ゴーヤとヘチマの苗を植えました。約1カ月で、1〜2メートル近くまで成長します。
昨年8月に市役所に設置したみどりのカーテンの内側と外側の温度差を調べたところ、内側が外側より平均2.1度低い結果が出ました。エアコンの設定温度を2度上げるだけで、消費電力を約10%下げる効果があるとも言われ、省エネルギーにつながります。



ピンク色のじゅうたんを目指して

初夏の風物詩・ハマヒルガオが5月下旬、平塚海岸で見頃を迎えました(写真)。かつては、平塚海岸にハマヒルガオが群生して咲き、ピンク色のじゅうたんのように見えたこともありましたが、現在は砂浜の浸食や人の踏み付けなどにより、その数が減っています。このため、1面で紹介したように平成22年から、市観光協会がハマヒルガオの保護と増殖のための活動に取り組んでいます。



家庭などに環境機器を設置・導入する際、その費用の一部を補助します。すでに、設置・購入したものの工事に着手しているものは対象になりません。ただし、機器が設置済みの建売住宅は、購入前に限り対象となります。予算額に達した時点で終了します。申請方法などの詳細はお問い合わせください。

環境関連の補助金を活用しよう

- ①太陽光発電 住宅の屋根などに設置する太陽光発電システムで、電力会社と電力供給契約を締結すること。指定のシステムに限る。最大出力が10キロワット未満。太陽光発電システム1基につき3万円。
- ②家庭用燃料電池エネファーム 住宅で、ガスなどから取り出した水素を利用して発電し、その排熱を給湯システムで利用するもの。指定のシステムに限る。エネファーム1基につき4万円。
- ③電気自動車・電動バイク 電気自動車はリチウムイオン電池搭載で、急速充電の利用が可能なもの。電動バイクは型式認定を受けた2輪の原動機付自転車。1人1台まで。電気自動車は5万円、電動バイクは1万円。
- ④家庭用電動生ごみ処理機 微生物を利用して、電動で生ごみを分解・消滅・堆肥化する処理機や、熱で生ごみを乾燥・減容化する処理機。本体購入価格の2分の1以内。限度額は3万円。